祝辭（代作）

竹田みち

伊豫大洲高等女學校、以二今茲乙卯十月當一於創立十年一、擧二行記念祝賀式一、以二余嚮奉二職是校一也亦見レ招、而公事卒々、不レ得レ陪二其末一、乃叙二數言一以慶レ之、憶余嚮在二是校一也、日夕愛二其山川之秀麗一、而又喜二其校風之醇美一、今猶有下依二々於懷一者上焉、夫大洲之爲レ地、青山疊レ翠、清溪飛レ珠、淙々焉、峨々焉、有下入二於仙境一之思上、而是地昔賢中江藤樹釋褐之地、其流風餘韻、亦使二人凜然仰止不ㄅ已、是以其鄕人自醇樸、皆恂々然以レ爲レ善爲レ樂也、夫山川之秀麗既如レ彼、而昔賢之流風餘韻亦如レ此、則生二於是地一、長二於是地一者、其必有二觀感興起一、卓然超越焉者一矣、群二卓然超越者一、而敎レ之以二無レ倦之良師一、嗚呼、此所下以是校十年如二一日一、隆々然致中今日之醇美上也歟、抑亦有下切望二於生徒諸子一者上焉、而今而後、益涵二養其德一、砥二礪其業一、仰以報二答良師無レ倦之隆恩一、俯以發下揚是校十年如二一日一之昌運上、則庶下乎不レ背二山川流聳之勝概一、而不ㄅ損二昔賢流芳之遺蹤一矣、時方高秋、四山紅葉爛然如二錦繡一、而諸君與二生徒一俱日夕在二其間一、余遙望二南天一、不レ勝二依々之情一也、是爲二祝辭一、

病院にて

尾上柴舟

床ちかき素燒の鉢の黑々と影ひき今日も夜となりにけり
すべをなみ妻のいたみをうちまもる男の身こそ悲しかりけれ
花瓶のだりあ影さし病院の秋のしいつの黑きゆふぐれ
運搬車音なくめぐる長廊下妻息もなく眠りてありけり
病院の夜の廊下にたちとまりふとこそおもへまた逢はじかと
世にあらで見むとは妻を思はねど人にいはれぬ物案じする
すひのみの中の氷にうちくだけしろく更けゆく秋の電燈

□

あたらしくわれてふものを作り出でむ術をしらねば今日も歎きす
われさへもわれを信ぜず人の子にわれ信ぜよと云ふは何事
一心に仰ぎてをれば大空とこゝろ一つにならむとすなり